

# 科学系研究者が利用するデータベースの使用実例

## ーデータベース，いつでもやって使う，習う？ー

片野泰代，伊藤誠二  
関西医科大学 医化学講座

現在，研究者をとりまくデータベース(DB)は多種多様なものが存在し，強力に我々の研究をサポートする必要不可欠なツールとなっている。DBとして構築されるデータ情報は，論文，DNA配列，タンパク質配列や構造，遺伝子組み換えマウスなど多種多様となっている。そしてこれらのデータは，証明された研究成果の集約であることから，知りたい研究テーマの結果や疑問の答えがすでに整然と示されている可能性がある。そのことから研究者は，DBを使いこなすことにより仕事効率を大いに向上させ，使わないことによって多くの時間を浪費することになる。

それほど有用なDBであるが，その使い方について習う機会は意外に少ない。関西医科大学の大学院カリキュラムでも昨年度までDBについては特に扱われてこなかった。よって，大学院生は必要に応じてそれぞれに試行錯誤する，あるいはその存在も知らないままに過ごしているのが現状である。その1つの理由として考えられるのが，指導者自身が習ってきた経験がなく，それぞれが試行錯誤して自分なりの「我流」で使っているからというものである。

本発表では，医療系図書館で単にHPにリンクを張るだけでなく，より細やかに若い研究者を教育してもらうことを目標とし，一研究者の「我流」とその改善点を示すことで，どのようにデータベースやWebツールを使用しているかという実例を示す。生命科学系の情報専門家の方々が，この「我流」をより効率化し「スタンダード化」することで，研究者教育に貢献できるのではないかと考える。